

2025

10

ナイル

現代短歌ナイル

甲村秀雄 追悼号

ナイルキャンパス／五代目神田伯梅

美貴子ワールド／松本美貴子
偶然の糸を遊ぶ【16】



NILE CAMPUS

316

伯梅閑話 — きさらぎ —

小村井敏子 (五代目神田伯梅)

東京のJR大森駅山王口（現・西口）に如月（きさらぎ）という店があった。お酒を飲む店だ。昭和の終り、天皇の御大葬の日にやっていると、いつも伯龍の独演会（国立演芸場以外の二か所毎月一回ずつ）の飲み会のあとに残る伯龍を入れての三人で集まった。それがきつかけで、前年に愛妻を亡くした伯龍にグットされることになった。鎌倉に引越したとき、家の近所に如月という店があるのを見た。六代目神田伯龍は、お客様の前ではお酒を飲むが、実は、お酒より白いご飯が好きだった。お客様がくださる日本酒を、千代夫人のために持ち帰る人だった。千代夫人は、そのお酒を飲みながら、講談の台本を書いたりしていたという。そんな伯龍だから、外に飲みに行くことも、家で飲むこともない。そのため、近所の如月に行くことはなかった。伯龍が亡くなって、しばらくは、ご近所の方からお悔やみを言われるのがつらいので、引きこもっていたが、如月の名前にひかれて行くようになった。カウンターとテーブル二つくらいの店だった。色々な職種の方々の話が面白くなった。赤信号で停まったら、サイドブレーキにすると足への負担が減る。坂道でなければ、オートマチックではパーキングにせず、ニュートラルに。パーキングだとドライブにする途中にバックがあるので、誤ってバックにして事故になるからだという。お陰で足が楽になった。

伯龍と暮らすようになって、伯龍は東京都大田区大森在住。甲村先生も大田区在住だったから、JR大森駅前の如月で、伯龍は甲村秀雄先生に会った。伯龍と会った甲村先生の最初の言葉は「人間国宝」だった。和服しか持たない伯龍だから、そう見えたのかも知れない。自分の芸に夢中で、弟子を持つとうしない伯龍。自分で売り込むこともなく、仲間からも離れた。客であった私にも、国立演芸場に出るときと、独演会以外は教えてくれないので追っかけはできなかった。